

# 高知県教育委員会 会議録

平成29年8月臨時委員会

場所：オリエントホテル高知

## (1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成29年8月23日(水) 13:30

閉会 平成29年8月23日(水) 14:38

## (2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席者	教育長	田村 壮児
	教育委員	平田 健一
	教育委員	竹島 晶代
	教育委員	八田 章光
	教育委員	中橋 紅美
	教育委員	木村 祐二

欠席者 なし

## (3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	北村 強
〃	教育次長	藤中 雄輔
〃	教育次長	永野 隆史
〃	参事兼小中学校課長	長岡 幹泰
〃	教育政策課長	酒井 啓至
〃	高等学校課長	高岸 憲二
〃	教育政策課課長補佐	泉 千恵
〃	小中学校課課長補佐	今城 純子
〃	高等学校課課長補佐	藤田 優子
〃	教育政策課教育企画担当チーフ	津野 哲生 (会議録作成)
〃	教育政策課指導主事	小島 文晴 (会議録作成)

## (4) 議事の概要及び教育長等の報告の要旨

### 【冒頭】

#### 【冒頭】

教育長 8月臨時委員会を開催する。

教育次長 (提案説明)

【付議第 1 号 県立高知国際中学校において使用する教科用図書の採択に関する議案

(小中学校課・高等学校課)】

○小中学校課長・高等学校課長 説明

○質疑

木村委員	高知国際中学校では、国際バカロレア教育のプログラムを使って学習を進めていくということなので、その学習の進め方に最も対応できる教科書をそれぞれの科目において選んだという認識でよろしいか。
事務局	委員のおっしゃるとおり、国際バカロレア教育を進めていくうえで学習に対応できる教科書ということは採択の観点でもある。またバカロレア教育においては、生徒の疑問や興味・関心を大切にする授業展開をして、主体的に学び活動し表現することを重視するという学習活動を行っていくので、そういったことにも対応できるような教科書であるという点で採択をしている。
平田委員	先ほどの質問と同じ内容だと思うが、基本的なことで確認をしておきたい。先ほど採択案の説明があったが、30年度の入学生は3年後、全員グローバル科へ進学するという点か。そういう点から、たびたびグローバル化であるとか、異文化であるとか、他国とわが国の伝統や発展的学習だとか、大変前向きな表現も含めて聞いたが、その60名の生徒は、3年後は全員国際高校グローバル科へ進学するという前提で、採択案を出しているということではよろしいか。
事務局	そのとおり。国際中学校の生徒については、3年後、国際高校としては普通科とグローバル科があるが、グローバル科への進学ということを中心に考えている。
竹島委員	採択の視点として、既にバカロレア教育を進めている学校を手本にしたということはあるか。
事務局	今、教員の派遣研修として東京学芸大学の附属の国際中等教育学校に派遣して、研修を積んでいるところである。その先進的な学校を一つのモデルケースとして参考にしているということが大きいと考えている。
竹島委員	学芸大附属の学校は一定の結果を残してきている学校だと思うが、これから始めていく学校が、最初から目標を高く持つことはよいが、国語と数学と外国語で採択教科書が今までとは全然違うということは、先生方から見て、上のレベルと考えてよいか。採択の基準に沿っていることもあると思うが、小学生から中学生になるにあたって、最初から目標としている学校と同じ教材というのはどうかとも感じるがどうか。

事務局	<p>I B教育を進めていくうえで、教科書も一つの非常に重要な教材であるが、教科書を使いながらI B教育をしていくという観点もある。委員のご指摘にあった、どの程度難しいか云々ということは教科書の視点にもよるところはあるが、I B教育を展開していきMYP・DPとつなげていくうえでは非常にやりやすい、使いやすい教科書であるということは間違いないと考えている。</p>
竹島委員	<p>生徒と教員のギャップというか、私たちは机上で言っているが、現場の先生は大変ではないかと、そういう点で少し気になったが、分かった。</p>
八田委員	<p>選定委員会のことだが、選定委員会は、既存の中学校であれば、その先生方が直接教えている立場で選ぶわけだが、そもそも選定委員会のメンバーはどのような構成をするべきみたいなものがあり、今回はどのような構成でされたのかということをお願いしたい。</p>
事務局	<p>まず、選定委員会は、資料の15ページにあるが、高知県立中学校教科用図書調査委員会規程があり、この規程によって調査委員会を設置していく。通常その学校の教員を中心に調査員を構成していくが、国際中学校の場合では、4月1日に設置されたが、まだ教職員が非常に少ないということがあるため、国際中学校に発令した教員を中心にしながら、発令等されていない教科・科目については、県の指導主事の力を借りて構成をしている。例えば、教育センターや中部教育事務所といったところの指導主事も合わせた形で調査委員会を構成して、選定をお願いしたという状況である。</p>
八田委員	<p>15ページを拝見すると、当該学校の教員と専門的な学識を有する者と保護者ということになっているので、専門的な学識を有する者として指導主事が入っているという理解でよいか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。この委員会規程に則ってということである。</p>
八田委員	<p>具体的には何名ぐらいで構成されているのか。</p>
事務局	<p>全部で18名で構成されている。</p>
八田委員	<p>その中で、既に国際中学校に現時点で所属しているのは何名か。</p>
事務局	<p>現時点で発令されているのは7名である。</p>
八田委員	<p>それから採択基準だが、採択基準案というのは、2ページに、採択基準</p>

事務局	<p>として三つの方針があるが、3番目に本県の教育理念・課題と書いてあることからすると、1番の基本方針とか2番の内容・構成に関するということというのは、これは本県独自ではなく全国共通のものと理解してよいか。</p> <p>全くの同一ということではないが、同様の視点に基づいてということである。</p>
八田委員	<p>3番目は本県の独自性があり、さらに県立中学の場合には学校ごとに独自の視点を入れていいということで、先ほどの学校の経営方針に基づく選定方針というのがあると理解した。それで16ページの教科書選定の視点というところで、どうしても1つ腑に落ちないのが、2番目の「反復繰り返しを重視されており定着を図る」というのは、教育の観点で決して間違いとは言えないが、国際バカロレアの非常にグローバルな視野を広げる勉強という観点からすると、少し違和感があって、レベルで言うてはいけませんが、基本事項をしっかり身につけるということを非常に重視した学校とは少し違うのではないかと思う。もちろん大事なことではあるが、これを2番目ぐらいに持ってくるというのは少し違和感があるのが、これを決める過程で何か意見等あったのか。</p>
事務局	<p>まず重要なものから順番にということではなく、教科書選定の視点を全部で5点挙げているということである。委員ご指摘のように、いわゆる知識・技能、反復繰り返しを重視する部分はまずベースとして大事であり、それを用いて思考力・判断力・表現力という両輪を活かしていかなくてはならないということを国際中学校でも、これからのそれぞれの学校で取り組んでいかなければならないということである。国際中学校においても、まず知識・技能である部分については、一定定着を図ったうえで、思考力・判断力・表現力の部分につなげていきたいという観点から、この反復繰り返しというところを入れており、これが1番重要だとか2番目に重要だとかいうような順番をつけたものではないが、重要なポイントとして我々としても認識をしているということである。</p>
八田委員	<p>むしろこの1番目と2番目は、どこの学校にも共通というイメージか。そして、三つ目からが国際バカロレアに即したというイメージでよいか。</p>
事務局	<p>そうである。これは基本的に中学校、国際中学校のような学校経営方針とか、学校としての教科書選定の視点ということであるため、委員の言われるように、上の二つがベースになるところであり、下の三つがどちらかというバカロレア教育に関した部分が非常に深いということになっている。</p>

八田委員	<p>もう1点、従来もそうなのだが、中高一貫で教育するということが何か教科書選定で重視される観点とはならないのか。これまでの安芸中学校などでも同じことなのかもしれないが、中高一貫だからこそこういう教育をするというようなことは何かないのかと思う。</p>
事務局	<p>中高一貫教育校であるので、6年間を見据えてというところは、やはり他の高校、中学校とは違う点である。県立中学校・県立高校の一貫した6年間を見通した形で、特に国際中学校・国際高校については6年間かけてIB教育をしていくという形にしているので、他のいわゆる3年間スパンの高校、3年間スパンの中学校とはもう一つ観点・視点が増えるということ間違いはない。そういった意味で6年間を通じた教育環境を見通したうえで、選定をしていかなければならないし、そういった意味での選定を心がけているというところである。</p>
八田委員	<p>参考資料4の16ページの学校経営方針等は、いつの段階で確定していくものなのか。例えば2年後に教科書を再度選ぶことになると思うが、そのときはそのまま踏襲されるのか、その都度議論されるのか、その辺のタイミングを教えてください。</p>
事務局	<p>現状としては、大まかな方針が極端に変わるということはないが、実際に生徒が入学し、学校運営が始まってから、最後の部分については変更をしていく可能性もあるため、2年後の教科書採択の時点においては、また一部変更もあり得るというように考えている。</p>
木村委員	<p>2年後にまた採択し直すということか。</p>
事務局	<p>教科書は基本的に4年ごとに採択をしていくようになる。前回の採択は、公立の中学校もそうだが、平成27年に採択をして28・29・30・31年まで採用するという事になっている。実際もう2年経っており、国際の場合は途中からということになるので、31年に再度採択ということになる。ただ、今回の場合は少しいびつで、33年から新学習指導要領になるので、32年に新学習指導要領に合わせた教科書を再び採択することになる。</p>
中橋委員	<p>先ほどからの質問と重なるところもあると思うが、国際中学校の経営方針などから教科書採択の視点があって、それに基づいて各教科書の特徴を調べて書いてあるが、その中で各教科書のページ数を見てみると、ページ数と内容というのは必ずしも正比例というか、相関関係があるわけではないと思うのだが、そのあたり採択にあたって、もちろん内容を見たうえで採択しているということ、ページ数だけで採択しているわけではないということよろしいか。</p>

事務局	<p>そのとおりである。あくまで選定資料の方は、一つの量的な視点としてページ数を示しているが、内容的な面では別の視点で見ながら採択を考えている。特に、今回の国際中学校の教科書選定においては、内容の面も重視をしたというところである。</p>
中橋委員	<p>それからもう1点、学校経営方針の中にグローバルな人材を育成するというような視点はどの学校にもあると思うが、その視点はほぼ共通にあって、実際本日の採択案を見ると、主要教科と思われる国語・数学・英語の教科書については、ほかの3校が採択をしてない教科書を採択案として挙げている。それはやはり国際バカロレアという視点が入ると、採択したいと考える教科書が替わってくるというように受け取ってよろしいか。</p>
事務局	<p>そういった視点も大きいということである。国際中学校・国際高校においては、バカロレア教育でMYPからDPにつなげていくという視点は大事にしているので、グローバルという視点はそれぞれの学校で非常に重要な視点ではあるが、それに加えて、国際バカロレアのプログラムを実施するうえで、重要な要素が加わり採択にあたったということである。</p>
教育長	<p>私からも確認したい。国際バカロレアのMYPのプログラムは、この教科書でクリアできると、要はこの教科書をしっかりとやれば、MYPに載っているプログラムはクリアできるというふうに考えてよいのか。それともMYPを確保するためには、この教科書に加えて何かやらなければならないことがあるのか。そのあたりを確認の意味でも教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>まず、教科書を教えるということではない、教科書だけを使ってということではないというのはそれぞれの学校で同様に言える。この国際中学校についても、教科書も一つの重要な教材ではあるが、教科書以外にIB教育のプログラムに載った補助教材等を使用していくことは必要になる。そのうえで教科書も有効に利用・活用していくという形になってくると考えている。決して教科書だけでこのプログラムをやっていくということではなく、教科書も使いながら教えていく形で進めていくということである。</p>
教育長	<p>教科書以外の教材が必要になってくるということによいか。</p>
事務局	<p>いろんな多様な教育活動を実践していかななくてはならないと考えているし、バカロレアについても評価基準に則った評価をしていく必要があるので、そういったところでいろんな教材を使いながら教育活動を実施していくということになると考える。</p>

竹島委員	<p>最初にも言ったが、目標が高いのは分かるが、文言で最初から気になるのが、やり始めて徐々に高い目標とか将来的な言葉を使えばいいと思う。16ページの教科書選定の視点のところ「将来の高度な言語活動への」とか、「時間・場所・空間を超えた学び」とか、何か抽象的に感じるというか、現時点でこのような文言が必要なのかなと思うし、もう少し分かりやすい言葉で書いてもいいのではと思う。</p>
事務局	<p>少し聞き慣れない、耳慣れない言葉があろうかと思うが、これはバカロレア教育等で非常に重要とされている言葉であり、そういったところを学校の方でも教科書選定の視点にもしているということである。</p>
竹島委員	<p>バカロレア教育の中でこういう言葉があるということか。</p>
事務局	<p>そうである。例えば、この時間とか場所とか空間を超えた学びということ、バカロレアのプログラムにおいては大事にしていこうということがあるので、そういった視点を学校ではベースに据えつつ、教科書選定もしていくということで記載している。</p>
八田委員	<p>先ほど教育長のご指摘で、教科書以外にもいろいろな教材が必要になるのではないかとあった。その場合、教科書は無償であるが、補助教材になるもの保護者の負担になるという理解でよいか。</p>
事務局	<p>現状は、補助教材については、どういった形で使うかはまだはっきりと決定したわけではないが、基本的にはいろいろな各種のプリントを使いながら、子どもたちが活動しやすい、また思考・判断を深めやすいような形で実践をしていきたいと考えている。いわゆる市販で購入して使えるような補助教材があるということではないので、高知国際中学校をこれから運営していくうえで、子どもたちに沿った形での補助教材、プリントが中心になると思うが、そういったものを準備して、教科書も使いながら実践をしていくということになろうかと思う。</p>
八田委員	<p>お聞きしたいのは、国際中学校を目指しているお子さんをお持ちの保護者が、余分な負担があるというようなイメージを持つのではないかと考えたので、例えば、学芸大附属の学校を例にすると、プラスアルファの負担がある程度あるのか、公立中学校とほとんど変わらないのかという質問である。</p>
事務局	<p>それは基本的には公立中学校と変わらない状況でやっている。</p>

八田委員	3ページの歴史的分野の採択案のところに「高知県の10の人権課題」があって、高知県の10の人権課題が分からないのだが。
事務局	高知県の人権教育指針というのがあり、その中に10の人権課題、H I V、ハンセン病であるとか、そういった人権のさまざまな課題があるが、それらを網羅しているというものである。いわゆる昔からある同和教育のことではない。
八田委員	それは高知県だからということではないということでしょうか。
事務局	高知県として10の人権課題を設定している。世界人権週間が始まった流れの中で、高知県としては、いわゆる部落問題だけでなく、そういったものまで幅広く人権課題として捉えて学んでいこうということである。
教育長 各委員 教育長	本事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いします。 全員挙手 本事件を原案のとおり議決する。

(5) 議決事項

付議第1号 原案どおり議決